

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年12月20日（月）
- 2 確認箇所
4号機西側（陸側遮水壁K排水路交差付近）
- 3 確認項目
陸側遮水壁測温管の温度上昇の対応状況

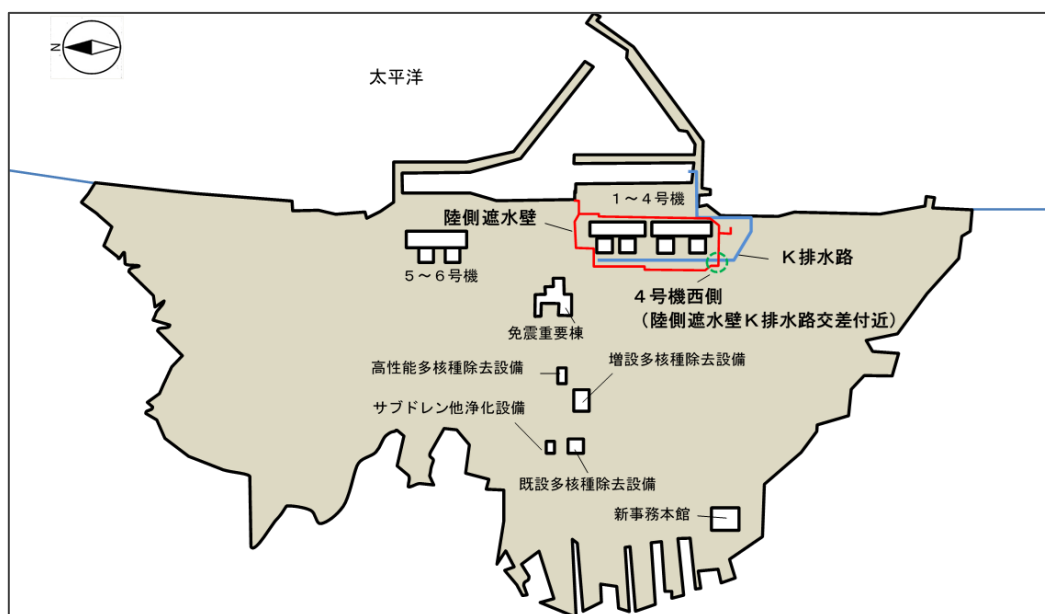
4 確認結果の概要

1～4号機建屋周囲に設けられている陸側遮水壁（凍土壁）（以下「遮水壁」という。）の一部（K排水路交差付近）において地中温度が0℃を超える状態が継続する事象（10月28日東京電力公表）が発生した。

東京電力では、K排水路の底部に湧水が確認されたことを踏まえ、地下水がK排水路に流入する過程において凍土壁の一部が融解している影響により、地中温度が上昇している可能性があるとした。それを受けて、12月13日までに地下水の流入を抑制するため上流側に鋼管を設置した。しかし、その後も地中温度やK排水路の湧水量等に明らかな変化が見られないことから、効果を高めるため12月17日から鋼矢板の設置を開始した。（前回現場確認：令和3年12月13日）（図1）

- ・設置が計画されている鋼矢板9枚中3枚目の設置が行われており、現場確認時は、3枚目の鋼矢板の余剰部分^{*}をクレーンで撤去する作業が行われていた。（写真1）
- ・現場には設置予定の鋼矢板が仮置きされていた。（写真2）

※ 鋼矢板の深さは、地下水を通しにくい泥質部（地表から約9.5m）または凍土壁の凍結部までとされており、鋼矢板の地上の余剰部分は切断され、撤去される。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
鋼矢板設置箇所の状況
(南東側から撮影)



(写真1-2)
鋼矢板の設置状況
(3枚の鋼矢板が設置)



(写真1-3)
鋼矢板の設置に使用する機器の状況



(写真 2)

鋼矢板の仮置き状況

(矢板の寸法：長さ 15m×幅 0.4m)

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。